

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|----------------------------------|--|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 23 26 27 48 52 54 | 本人の意向を尋ねたり、ケアについてユニット内で話し合いをしているが、認知症の進行や重度化でケアの提供に時間がかかるようになってきた。また職員の配置異動や離職等により、入居者個々に必要な生活リハビリやレクリエーション等の必要性が職員間に十分に浸透できていない。ご家族アンケートでも口腔ケアへの不安や歩行状態が気になるとの回答があった。 | 入居者の想いに寄り添い必要な支援を職員全員が認識し共有しチームケアを実践する。またご家族にもグループホームでの個別ケアの取り組みや様々な活動が行われている事を理解して頂くために情報を発信する。 | ①担当職員がしっかりアセスメント・モニタリングを行い、個別に必要な支援を提案する。 ②両ユニットの職員が協力してレクリエーションや体操等を実践する。 ③入居者の日常的な活動風景を写真や記録に残し、定期的にお手紙を発送するとともに面会時にも口頭で伝え、ご家族に理解して頂くよう努める。(口腔ケアの様子や生活リハビリ等普段見えずらいケアの内容はプライバシーに配慮して写真に撮り報告する。) | 12ヶ月 |
| 2 | 10 20 23 26 49 54 | ご家族から、日常的な外出支援ができていない、わからないとの意見がある。入居者やご家族皆で外出する年に一度の日帰り旅行も、入居者の心身機能の重度化に伴い、実施することが難しくなっている現実がある。ご家族や地域の方々の協力を今後も頂きながら支援していく必要がある。 | 入居者の支援はグループホーム職員で完結する体制ではなく、地域密着型施設としての役割をご家族にも理解して頂きながら、ご家族や地域の方々と支援する体制を作っていく。 | ①ご家族訪問時に入居者の状況を知って頂くために職員はコミュニケーションを密に行い、ご家族が協力しやすいように配慮する。 ②戸外への散歩や買い物支援、家族会の運営や行事の参加等の協力を積極的にお願していく。 | 12ヶ月 |
| 3 | 35 | 聖母の丘本館(特養・養護)と合同で火災時の避難訓練を実施しているが、令和元年度はグループホーム単独での災害時の避難訓練は実施できていない。また新たに入職した職員もいて全職員が避難誘導できる知識や実践方法が身につけていない。 | グループホームの火災避難訓練・通報訓練等のマニュアルを再度全職員で見直しを行い、グループホーム内で周知徹底する。 | ①グループホーム単独での火災避難訓練を行い、実際に入居者の避難誘導訓練を実施し、問題点を把握する。 ②災害避難訓練時に運営推進会議の委員の方にも参加して頂き意見を伺う。 ③聖母の丘本館(特養・養護)との協力体制を確立する。 | 12ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。